平成 28 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

髙野　哲司

１．事業実施の目的
　日本の都市の庭における植物と人との関わりを明らかにする。
２．実施場所
　東京都台東区谷中、東京都豊島区北大塚 1 丁目、東京都台東区役所
３．実施期日
　平成 29 年 1 月 10 日（火）から　1 月 13 日（金）
４．成果報告
●事業の概要
　本事業の実施内容は、（１）東京都台東区谷中および東京都豊島区北大塚 1 丁目における住宅の庭の植物に関する聞き取り調査、（２）東京都台東区役所において、「緑の実態調査」（台東区が平成 22 年度に実施）に関する資料収集の 2 点である。
（１）平成 29 年 1 月 10 日から 1 月 12 日まで東京都台東区谷中および東京都豊島区北大塚 1 丁目において、住宅の庭の植物に関する聞き取り調査を行った。具体的には、地域住民の方々の住宅を訪問し、庭の植物について、植物の種類ごとに入手経路、植物の利用方法についてインタビューを行った。入手経路については、「その植物はどこから来ましたか。花屋などで購入されたもの、他の方からいただいたものはありますか」という質問を行った。植物の利用方法については、「食用や薬用、生け花に使われるなど、生活の中で何かに使われている（利用されている）植物はありますか」という質問を行った。地域住民の方々には、定住年数、庭の植物にまつわるエピソードについても質問を行った。聞き取り調査の際には、庭の植物の種類の記録や庭全体の写真撮影も行った。エノコログサなど庭に自然に芽生えてきたと思われる植物も観察されたので、入手経路、その利用方法について「庭に自然に芽生えてきた植物はありますか。何かに使われることはありますか」という質問を行った。ハコベ、マンリョウなど日本の伝統行事に利用される植物、アロエなど薬用に利用される植物についても種類ごとに可能な限り質問を行った。例えば、庭に生育していた春の七草の１つとして食されるハコベについては「ハコベは春の七草の１つですが、庭に生えているハコベを食べることがありますか」という質問を行った。草花遊びの際に、種子が利用されるオシロイバナについても、入手経路、利用方法について質問を行った。
（２）平成 29 年 1 月 13 日には、東京都台東区役所において、「緑の実態調査」（台東区が平成 22 年度に実施）に関する資料収集および台東区環境課の方に「緑の実態調査」に関する質問を行った。具体的には、「緑の実態調査では、樹木が調査対象になっているのですが、それはなぜですか」という質問を行った。

●本事業の実施によって得られた成果
本事業の実施によって得られた結果としては、以下の２点が挙げられる。
１.東京都台東区谷中および東京都豊島区北大塚 1 丁目の地域住民の庭における植物の入手経路や利用方法の一端を知ることができた。以下に、本事業の実施により、東京都台東区谷中および東京都豊島区北大塚 1 丁目で得られた成果を詳述する。

1-1.東京都台東区谷中における庭の植物と人との関わり

東京都台東区谷中の地域住民の庭における植物の入手経路には購入、贈与、採集が確認された。購入については、購入場所を居住者の方に質問したところ、カンノンチクなどを地元の花屋で購入する事例、ツバキなどを種苗会社の通信販売において購入する事例が確認された。贈与については、ミズヒキを近所の住民の方や、通りすがりに、その植物を見て「欲しい」と希望される方に居住者が差し上げている事例が確認された。採集については、伊豆の海岸に生育するアシタバを居住者が転居の際に根から採集し新居へ移動させ、新居において植木鉢で栽培している事例が確認された。転居の際に野外で植物を採集するのは、「故郷の思い出」の品として、新居に持っていくためであることが明らかになった。報告者はこれまでに、地方都市である兵庫県明石市の地域住民が、植物を野外から採集して庭に植栽する事例を確認しているが、兵庫県明石市の採集の事例の場合、「花がきれいなので、庭で育ててみたい」という目的で採集されており、野外で植物を採集するという行為は同じであるが、採集する目的が異なっていることが伺えた。東京都台東区谷中における庭の植物の利用方法としては、食用では、カキやウメなどが利用されていた。日本の伝統行事に利用されるマンリョウについては、居住者が購入や贈与により植栽した状態のものを利用するのではなく、自然に芽生えたものを植木鉢に植え替えて栽培すること、芽生えた場所で栽培して、赤い果実が結実した状態で生け花や植木鉢ごと玄関に飾る事例を確認することができた。居住者が自然に芽生えてきたスミレの一種の花が咲くことを楽しみにしている事例も確認することができた。

1-2. 東京都豊島区北大塚 1 丁目における庭の植物と人との関わり

東京都台東区谷中の地域住民の庭における植物の入手経路には購入、贈与、採集が確認された。

購入については、茶花としてコバンソウなどを購入した事例が確認された。贈与については、アケビの苗を在職中に会社の同僚からいただいて育てているという事例が確認された。採集については、ヒガンバナを出身地で採集し、転居先で栽培している事例が確認された。

2.東京都台東区環境課が平成 22 年度に実施した「緑の実態調査」の調査結果に関する資料を収集することができた。台東区環境課の方に「緑の実態調査では、樹木が調査対象になっているのですが、それはなぜですか」という質問を行ったところ、樹木が調査対象となっているのは、1 年草に比べて枯れることが少ないためであることが明らかになった。台東区環境課の方との会話の中では、東京都台東区の庭における植物と人との関わりを研究する上で重要な２つの知見を得ることができた。１つめは、台東区においては、ここ数年のうちに庭に宿根性アサガオを植える事例が増加しており、区役所においても宿根性アサガオが栽培されているということである。２つめは、報告者が「緑の実態調査」の原本を閲覧時に、庭の植物の中に、カヤツリグサなど草花遊びに利用される植物があることを台東区環境課の方に伝えたところ、台東区環境課の方から「東京都における生物多様性を考慮した取り組みの一環として、在来種の植栽を推進する動きがあります」というコメントをいただいたことである。

●本事業について

この度は、学生派遣事業を活用させていただいたことで、東京都台東区と東京都豊島区北大塚 1 丁目および東京都台東区役所で現地調査を行い、研究を一歩前に進めることができました。深く感謝いたします。